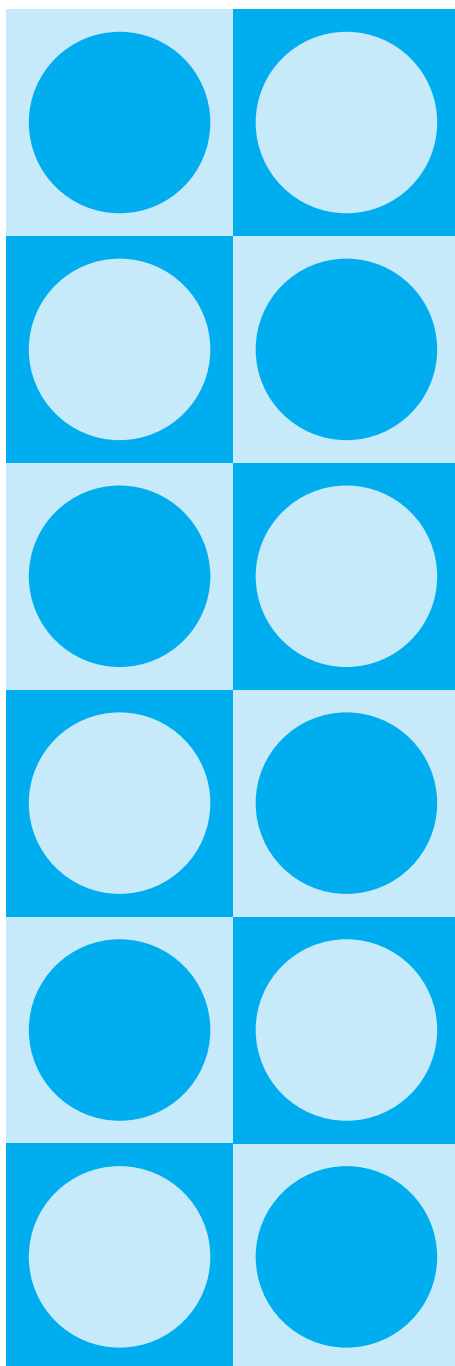


参考資料

アンケート調査票



調査票

いわゆる「気になる子」や障害児等の受入実態や支援に関する調査票

1. 貴保育所の施設の状況についてお伺いします。番号等○をして、記述欄はご記入ください。

Q1 調査票の回答者	1. 園長	2. 主任保育士	3. 障害児保育担当保育士	4. 保育士	5. その他()	
Q2 施設の所在地	都道府県名 ()		市区名 ()		町村名 ()	
Q3 経営主体	1. 市町村などの公営			2. 社会福祉法人などの民営		
Q4 施設認可年	昭和 ・ 平成 ()年					
Q5 職員(保育士)	常勤 () 人		非常勤 () 人			
Q6 職員(看護師・保健師)	常勤 () 人		非常勤 () 人			
Q7 児童定員数	()人					
Q8 児童入所者数(年齢別内訳) 平成27年10月1日現在	0歳児 人	1歳児 人	2歳児 人	3歳児 人	4歳児 人	5歳児 人
Q9 保育の形態	1. 年齢別保育		2. 縦割り保育		3. その他()	

2. いわゆる「気になる子」の受け入れや実態、支援の状況についてお伺いします。

Q10 貴保育所に、いわゆる「気になる子」はいますか。

1. いる →Q11 へ 2. いない →Q22 へ

Q11 いわゆる「気になる子」が「いる」と回答した方にお伺い致します。「気になる子」の実態についてあてはまる項目の年齢ごとの人数を記入してください(上段)。そのうち、「特別な支援を行っている」場合は、同じ枠の下段に人数を記入してください。0も空白も0人とカウントします。

実 態		大変気になる			やや気になる		
		0~2歳	3歳	4~5歳	0~2歳	3歳	4~5歳
①発達上の問題が気になる 「発達の遅れ」「言語」「理解力」など	人数	人	人	人	人	人	人
	特別支援	人	人	人	人	人	人
②コミュニケーションが気になる 「やりとり」「視線」「集団参加」など	人数	人	人	人	人	人	人
	特別支援	人	人	人	人	人	人
③落ち着きが気になる 「多動」「落ち着きのなさ」「集中力」など	人数	人	人	人	人	人	人
	特別支援	人	人	人	人	人	人
④情緒面が気になる 「乱暴」「こだわり」「感情のコントロール」など	人数	人	人	人	人	人	人
	特別支援	人	人	人	人	人	人
⑤運動面が気になる 「ぎこちなさ」「不器用」など	人数	人	人	人	人	人	人
	特別支援	人	人	人	人	人	人
⑥その他 ()	人数	人	人	人	人	人	人
	特別支援	人	人	人	人	人	人
⑦その他 ()	人数	人	人	人	人	人	人
	特別支援	人	人	人	人	人	人
⑧その他 ()	人数	人	人	人	人	人	人
	特別支援	人	人	人	人	人	人

Q12 いわゆる「気になる子」の保育体制について、最も近いものにひとつだけ○をしてください。

1. 気になる子のいるクラスの担当保育士を複数配置し、チームで保育している	2. 担任保育士に任せている (チームで保育していない)	3. その他 (具体的に:)
---------------------------------------	---------------------------------	--------------------

Q13 いわゆる「気になる子」の保育の現状について、あてはまる箇所すべてに○をしてください。

		大変 むずかしい	やや むずかしい	むずかしく ない
①保育運営	1) 集団での保育			
	2) 園外(散策など)での保育			
	3) 行事の企画・運営			
②その子自身への対応	1) こだわり、パニックへの対応			
	2) 生活習慣の確立			
	3) その子についての理解			
③保護者への対応	1) その子についての共通理解			
	2) コミュニケーションをとること			
	3) 保育の実践のための連携			

④その他、いわゆる「気になる子」の保育の現状について、ご自由にお書きください。

Q14 貴保育所では、いわゆる「気になる子」のチェックリストやアセスメントを活用していますか。あてはまるものに○をしてください。

1. チェックリストやアセスメントを活用している	→Q15 へ
2. チェックリストやアセスメントを活用していない	→Q16 へ

Q15 活用しているチェックリストやアセスメントの名称等を具体的にお書きください。

Q16 チェックリストやアセスメントを活用していない理由を具体的にお書きください。

Q17 貴保育所には、いわゆる「気になる子」の対応(支援)マニュアル(手引き)がありますか。あてはまるものに○をしてください。

1. 対応(支援)マニュアル(手引き)がある	→Q18 へ
2. 対応(支援)マニュアル(手引き)がない	→Q19 へ

Q18 「対応(支援)マニュアル(手引き)」等の作成主体は誰ですか。あてはまるものに○をしてください。

1. 自治体	2. 学校	3. 保育所(自分たちのオリジナル)
4. 市販のもの、その他(市販・配布元団体名をご記入ください) ()		

Q19 貴保育所では、いわゆる「気になる子」の保護者や家庭に対して、どのような対応・支援を行っていますか。
あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 保育所職員による電話相談・カウンセリング実施	6. 保育内容についての個別面談の実施
2. 障害児専門機関等に関する情報提供	7. 障害児保育所内での生活状況の定期的報告
3. 保育所職員による障害児保育所への送迎	8. 保育所職員による家庭訪問・相談
4. 夜間・休日など保育時間外の一時預かりの実施	9. その他(具体的に:)
5. 保育所職員による家庭での対応・支援などの実施	10. 特に対応・支援は行っていない →Q21 へ

Q20 貴保育所では、いわゆる「気になる子」の日常生活や発達状況について、どのように保護者に報告していますか。
最も近いものに○をしてください。

1. 定期的に個別面談を行っている	4. 年に1回、まとめて報告している
2. 定期的に保育所だよりを通じて報告している	5. 子どもの生活や発達状況に変化があった時に報告している
3. 保護者から求められる都度、報告している	6. その他(具体的に:)

Q21 Q19で「特に対応・支援は行っていない」と答えられた保育所の方にのみお伺いします。いわゆる「気になる子」の保護者や家庭に対する支援を行っていない理由について、あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 対応・支援を実施するための金銭的余裕がない	6. 対応・支援を行うための専門知識を持った職員がいない
2. 対応・支援を実施するための時間的余裕がない	7. 保育所よりも専門機関、地域、学校が支援した方がよい
3. 対応・支援を実施するための人的余裕がない	8. 家庭支援の必要性を感じない
4. 該当児童の保護者・家庭が支援を望んでいない	9. その他(具体的に:)
5. どのような対応・支援を行えばよいかわからない	10. 特に理由はない

3. 「障害児」の受け入れや実態、支援の状況についてお伺いします。

Q22 貴保育所は、現在「障害児」を受け入れていますか。

1. いる →Q23 へ 2. いない →Q44 へ

Q23 貴保育所で受け入れておられる障害児の「人数」をお答えください。 ※Q24の合計数と一致するように注意してください。

障害種類	1.知的障害	2.視覚障害	3.聴覚障害	4.肢体不自由	5.自閉症 (自閉的傾向)	6.ADHD(注意欠陥 多動性障害)	7.LD (学習障害)	8.左記以外 の障害
①0歳～2歳	人	人	人	人	人	人	人	人
②3歳	人	人	人	人	人	人	人	人
③4歳～5歳	人	人	人	人	人	人	人	人

Q24 貴保育所で受け入れておられる障害児の「障害の程度」等を手帳等をふまえてお答えください。

	1.最重度 (A1/マルA)	2.重度 (A2/A)	3.中度 (B1/B)	4.軽度 (B2/C)	5.不明
①ダウン症	人	人	人	人	人
②知的障害 (ダウン症以外)	人	人	人	人	人

	1. 1級	2. 2級	3. 3級	4. 4級	5. 5級	6. 6級	7. 不明
③視覚障害	人	人	人	人	人	人	人
④聴覚・言語障害	人	人	人	人	人	人	人
⑤肢体不自由 (要医療的ケア)	人	人	人	人	人	人	人
⑥肢体不自由 (上記以外)	人	人	人	人	人	人	人

⑦自閉症 (自閉的傾向)	知的障害有り	人	知的障害無し	人
⑧ADHD(注意欠陥 多動性障害)	重複障害有り	人	重複障害無し	人
⑨LD(学習障害)	重複障害有り	人	重複障害無し	人
⑩その他の障害	障害名: 人	障害名: 人	障害名: 人	人

Q25 貴保育所に医療的ケアが必要な子どもは在籍していますか。
 在籍している場合には、年齢ごとの在籍人数をお答えください。0も空白も0人とカウントします。

区 分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
① 経管栄養（鼻腔に留置されている管からの注入）	人	人	人	人	人	人
② 経管栄養（胃ろう）	人	人	人	人	人	人
③ 経管栄養（腸ろう）	人	人	人	人	人	人
④ 経管栄養（口腔ネラトン法）	人	人	人	人	人	人
⑤ IVH中心静脈栄養	人	人	人	人	人	人
⑥ 口腔・鼻腔内吸引（咽頭より手前まで）	人	人	人	人	人	人
⑦ 口腔・鼻腔内吸引（咽頭より奥の気道）	人	人	人	人	人	人
⑧ 気管切開部（気管カニューレ内）からの吸引	人	人	人	人	人	人
⑨ 気管切開部（気管カニューレ奥）からの吸引	人	人	人	人	人	人
⑩ 経鼻咽頭エアウェイ内吸引	人	人	人	人	人	人
⑪ 気管切開部の衛生管理	人	人	人	人	人	人
⑫ ネオプライザーなどによる薬液（気管支拡張剤等）の吸入	人	人	人	人	人	人
⑬ 経鼻咽頭エアウェイの装着	人	人	人	人	人	人
⑭ 酸素療法	人	人	人	人	人	人
⑮ 人工呼吸器の使用	人	人	人	人	人	人
⑯ 導尿	人	人	人	人	人	人
⑰ 心臓ペースメーカー	人	人	人	人	人	人
⑱ 上記項目の医療的ケア項目	人	人	人	人	人	人

Q26 貴保育所における障害児保育の専任職員数をお答えください。ひとつだけ○をしてください。

1. 0人	2. 1人	3. 2人	4. 3人	5. 4人	6. 5人以上
-------	-------	-------	-------	-------	---------

Q27 入所障害児の職員加配にかかる費用の財源について、最も近いものにひとつだけ○をしてください

1. 市区町村からの補助金	3. 市区町村補助金と保育所独自の財源のミックス
2. 保育所の独自財源	4. その他(具体的に:)

Q28 現在、貴保育所に所在する障害児向け設備・備品等について、あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. トイレ、出入口、廊下等の手すり・スロープ	5. 遊具、玩具、教具等
2. エレベーター	6. 昇降装置等が付いた送迎用バス
3. トランポリン等の大型遊具	7. その他(具体的に:)
4. 室内プール	8. 特に障害児向け施設設備・備品等はない

Q29 現在、貴保育所に存在する障害児向け設備や備品等について、自治体からどのような支援を受けていますか。
 あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 遊具、玩具、教材等の現物給付	4. 障害児向け設備・備品についての専門家派遣
2. 遊具、玩具、教材等の購入費用の全額・一部負担	5. その他(具体的に:)
3. 建物等のバリアフリー化改修費用の全額・一部負担	6. 特に支援は受けていない

Q30 貴保育所における障害児保育体制について、最も近いものにひとつだけ○をしてください。

1. 障害児のいるクラスの担当保育士を複数配置し、チームで保育している	2. 障害児保育専任の保育士だけに任せている(チームで保育していない)	3. その他(具体的に:)
-------------------------------------	-------------------------------------	----------------

Q31 貴保育所では、障害児の保育においてチェックリストやアセスメントを活用していますか。あてはまるものに○をしてください。

1. チェックリストやアセスメントを活用している	→Q32 へ
2. チェックリストやアセスメントを活用していない	→Q33 へ

Q32 活用しているチェックリストやアセスメントの名称等を具体的にお書きください。

--

Q33 チェックリストやアセスメントを活用していない理由を具体的にお書きください。

--

Q34 貴保育所には、障害児の対応(支援)マニュアル(手引き)がありますか。あてはまるものに○をしてください。

1. 対応(支援)マニュアル(手引き)がある	→Q35 へ
2. 対応(支援)マニュアル(手引き)がない	→Q36 へ

Q35 「対応(支援)マニュアル(手引き)」等の作成主体は誰ですか。あてはまるものに○をしてください。

1. 自治体	2. 学校	3. 保育所(自分たちのオリジナル)
4. 市販のもの、その他(市販・配布元団体名をご記入ください) ()		

Q36 貴保育所における「障害児の保育・支援計画」について、最も近いものにひとつだけ○をしてください。

1. 個人別の保育・支援計画がある →Q37 へ	2. 施設または障害児グループ全体の 支援計画がある →Q37 へ	3. 支援計画はない →Q40 へ
-----------------------------	---	----------------------

Q37 「障害児の保育・支援計画の立案・作成」には誰が携わっていますか。最も近いものにひとつだけ○をしてください。

1. 保育所の職員のみ	2. 保育所職員と障害児の保護者	3. 保育所職員と外部の専門有識者
4. 保育所職員、障害児の保護者、外部の専門有識者		5. その他(具体的に:)

Q38 Q37で「3」「4」を選ばれた方にお伺いします。

「外部の専門有識者」は具体的にどのような職種の方ですか。あてはまるものにすべて○をしてください。

1. 医師	2. 看護師 保健師	3. 臨床心理士 カウンセラー	4. 理学療法士 作業療法士	5. 障害児教育の 専門家	6. その他 (具体的に:)
-------	---------------	--------------------	-------------------	------------------	--------------------

Q39 障害児の保育・支援計画の見直し等について、最も近いものにひとつだけ○をしてください。

1. 年単位で見直しをしている	2. 学期単位で見直しをしている	3. 月単位で見直しをしている
4. その他(具体的に:)		

Q40 障害児保育以外の特別保育について、貴保育所で提供されているサービスの番号すべてに○をしてください。

1. 延長保育	2. 一時保育	3. 病児保育	4. 休日保育
5. 地域子育て支援センター事業		6. その他(具体的に:)	

Q41 貴保育所では障害児の保護者や家庭に対して、どのような支援を行っていますか。

あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 保育所職員による電話相談・カウンセリング実施	6. 保育内容についての個別面談の実施
2. 障害児専門機関等に関する情報提供	7. 障害児保育所内での生活状況の定期的報告
3. 保育所職員による障害児保育所への送迎	8. 保育所職員による家庭訪問・相談
4. 夜間・休日など保育時間外の一時預かりの実施	9. その他(具体的に:)
5. 保育所職員による家庭での支援などの実施	10. 特に支援は行っていない →Q43 へ

Q42 貴保育所では障害児の日常生活や発達状況について、どのように保護者に報告していますか。最も近いものに○をしてください。

1. 定期的に個別面談を行っている	4. 年に1回、まとめて報告している
2. 定期的に保育所だよりを通じて報告している	5. 子どもの生活や発達状況に変化があった時に報告している
3. 保護者から求められる都度、報告している	6. その他(具体的に:)

Q43 Q41で「特に支援は行っていない」と答えられた保育所の方にのみお伺いします。障害児の保護者や家庭に対する支援を行っていない理由について、最も近いものにひとつだけ○をしてください。

1. 支援を実施するための金銭的余裕がない	6. 支援を行うための専門知識を持った職員がいない
2. 支援を実施するための時間的余裕がない	7. 保育所よりも専門機関、地域、学校が支援した方がよい
3. 支援を実施するための人的余裕がない	8. 家庭支援の必要性を感じない
4. 入所障害児の保護者・家庭が支援を望んでいない	9. その他(具体的に:)
5. どのような支援を行えばよいかわからない	10. 特に理由はない

Q44 Q22で「障害児を受け入れていない」と答えられた保育所の方にのみお伺いします。貴保育所の障害児向けサービス等の今後の意向についてお考えに近い番号に○をしてください(3つまで)。

1. 障害児対応の保育士を増やしたい	8. 地域・学校との連携によるサービスを充実させたい
2. 手すり、エレベーターなど障害児向け設備を充実させたい	9. 障害児を持つ家庭への支援サービスを充実させたい
3. トランポリンなど大型遊具を充実させたい	10. 障害児の送迎サービスを実施したい
4. 遊具・玩具・教材など障害児向け備品を充実させたい	11. 障害児に配慮した食事(給食)にしたい
5. 子どもの発達に合わせて保育計画・内容を見直したい	12. その他(具体的に:)
6. 障害児対応の職員の資質を向上させたい	13. 特に障害児保育についての意向はない
7. 専門機関との連携によるサービスを充実させたい	

4. いわゆる「気になる子」や障害児保育に関する職員の資質向上の取り組みについてお伺いします。

Q45 保育所職員の資質向上の取り組みについて、最も近いものにひとつだけ○をしてください。

1. 全職員を対象にした取り組みがある →Q46 へ	2. 障害児担当職員のみを対象とした 取り組みがある →Q46 へ	3. 取り組みはない →Q48 へ
-------------------------------	---	----------------------

Q46 Q45で「取り組みがある」と答えられた保育所の方にお伺い致します。その取組内容について、あてはまる番号にすべて○をしてください。

1. 職員だけで保育所内研修を実施している	4. 外部の障害児専門機関に職員を外向・派遣している
2. 外部講師を招いて保育所内研修を実施している	5. その他(具体的に:)
3. 外部の研修会・講習会に職員を参加させている	

Q47 貴保育所の職員の資質向上を目的とした取り組みについて、自治体からどのような支援を受けていますか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 研修会、講師等に関する情報の提供	4. 職員の研修会参加費用の全額・一部負担
2. 自治体による障害児保育の研修・講習会の開催	5. その他(具体的に:)
3. 講師の派遣(費用負担含む)	6. 特に支援は受けていない

Q48 Q45で保育所職員の資質向上を目的とした「取り組みがない」と答えられた保育所の方にのみお伺いします。職員の資質向上の取り組みをしていない理由について、最も近いものにひとつだけ○をしてください。

1. 取り組みのための金銭的余裕がない	5. 取り組みの効果がわからない
2. 取り組みのための時間的余裕がない	6. 取り組みの必要性を感じない
3. 取り組みのための人的余裕がない	7. その他(具体的に:)
4. 指導にあたる専門的知識を持った人がいない	8. 特に理由はない

5. いわゆる「気になる子」や障害児対応の専門機関との連携状況についてお伺いします。

Q49 保育の実施に関して、貴保育所ではどのような専門機関と連携していますか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 障害児施設(各種障害児施設・療育センター)	5. 医療機関
2. 大学・研究機関	6. 保健所・保健センター
3. 発達支援センター	7. その他(具体的に:)
4. 児童相談センター	8. 連携してる専門機関はない →Q51 へ

Q50 専門機関との連携について、自治体からはどのような支援を受けていますか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 連携先専門機関の紹介・情報提供	4. その他(具体的に:)
2. 専門機関の専門家の派遣(費用負担も含む)	5. 特に支援は受けていない
3. コーディネーターの派遣(費用負担も含む)	

Q51 Q49で「連携している機関はない」と答えられた保育所の方にのみお伺いします。
専門機関と連携をとっていない理由について、最もあてはまる番号に1つだけ○をしてください。

1. 専門機関と連携するための金銭的余裕がない	7. 連携について保護者の理解が得られない
2. 専門機関と連携するための時間的余裕がない	8. 連携について専門機関の理解が得られない
3. 専門機関と連携するための人的余裕がない	9. 連携しなくても保育所内だけで対応できる
4. 連携できる専門機関が近くにない	10. 専門機関との連携は障害児保育上、あまりメリットがない
5. どのような専門機関と連携すればよいかわからない	11. その他(具体的に:)
6. 専門機関との連携をコーディネートしてくれる人がいない	12. 特に理由はない

6. いわゆる「気になる子」や障害児保育に関して地域や学校との連携状況についてお伺いします。

Q52 保育の実施に関して、貴保育所ではどのような地域内の主体と連携していますか(専門機関・行政機関は除く)。
あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 他の保育所、幼稚園	6. 特定非営利活動法人(NPO)・子育てサークル等任意団体
2. 地域内の小学校	7. 自治体・町内会
3. 地域内の中学校	8. その他(具体的に:)
4. 地域内の大学・研究機関	9. 連携している地域の主体はない →Q53 へ
5. 地域内の特別支援学校(特別支援学級)	

Q53 Q52で「連携している地域の主体はない」と答えられた保育所の方にのみお伺いします。
地域や学校等と連携をとっていない理由について、最も近いものにひとつだけ○をしてください。

1. 地域・学校と連携するための金銭的余裕がない	7. 連携について専門機関の理解が得られない
2. 地域・学校と連携するための時間的余裕がない	8. 連携しなくても保育所だけで対応できる
3. 地域・学校と連携するための人的余裕がない	9. 連携しても障害児保育上、あまりメリットがない
4. どのような地域主体と連携すればよいかわからない	10. その他(具体的に:)
5. 地域・学校との連携をコーディネートしてくれる人がいない	11. 特に理由はない
6. 連携について保護者の理解が得られない	

Q54 いわゆる「気になる子」や障害児の保育で工夫していることがあれば、ご自由にお書きください。

Q55 いわゆる「気になる子」や障害児保育に対する行政(国・市区町村)の施策について希望・要望があれば、ご自由にお書きください。

ご協力、大変ありがとうございました。貴重なご回答を子どもとその家族の皆様の幸せのために活用させていただきます。

保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究

調査研究委員名簿

研究委員長 小林芳文 和光大学名誉教授・横浜国立大学名誉教授

研究委員 飯村敦子 鎌倉女子大学教授

研究委員 志水武史 株式会社日本総合研究所 研究員

研究委員 小林保子 鎌倉女子大学教授

研究委員 大橋さつき 和光大学准教授

研究委員 竹内麗子 清水台保育園 園長

**保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入れ実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する
調査研究報告書**

発行：平成28年3月

発行所：社会福祉法人 日本保育協会

〒102-0083

東京都千代田区麹町1丁目6番2号 アーバンネット麹町ビル6階

電話 03-3222-2116（事業部直通） FAX 03-3222-2117

URL <http://www.nippo.or.jp/>

本書の内容あるいは一部を転用、複製複写（コピー）する場合は、法律で認められた場合を除き、当協会あてに許諾を求めてください。

